

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2770901045
法人名	医療法人 啓友会
事業所名	グループホームめぐみ
訪問調査日	平成 21 年 9 月 9 日
評価確定日	平成 21 年 10 月 5 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2770901045
法人名	医療法人啓友会
事業所名	グループホームめぐみ
所在地	高槻市安岡寺町1丁目36番8号めぐみの家2階 (電話) 072-689-3251

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年9月9日	評価確定日	平成21年10月5日

【情報提供票より】(21年7月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 人, 常勤換算 5.4

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨陸屋根 造り	
	3 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	74,000円	その他の経費(月額)	5,000円	
敷金	有()円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	650 円
	夕食	550 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(7月27日現在)

利用者人数	6 名	男性	2 名	女性	4 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 91.5 歳	最低	85 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	啓友クリニック みどりヶ丘病院 近森歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人代表者の地域医療貢献への思いから、介護保険制度施行と同時にグループホームを開設した。戸建ちの多い住宅地に位置し閉園した幼稚園施設を買い取り、改造・改装したもので、1階に診療所と通所介護・認知症対応型通所介護、2階にグループホームと短期利用型と通所リハに入院設備、3階にケアハウスを併設している。医療連携加算・看取り介護加算・サービス提供体制強化加算・若年性認知症利用者受入加算を導入している。職員全員が常勤職で通所介護と勤務シフトを一部重複していること、また、構内に診療所と通所リハの併設は、日常的にまた緊急時にサービスが連携して提供されることに繋がり、利用者と家族にとっては安心の大きな要素となっているようだ。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	①理念を簡潔で地域密着をより意識したものへ変更、②地域交流の推進、③評価制度の理解と活用の推進、④同業者との交流と連携増進、⑤重度化対応・看取り対応について方針の共有化、の5点を改善課題とした。⑤についてが指針を作成し関係者が共有化する仕組みが整いつつある。が、①～④については、改善に向けての積極的な取り組みがみられないのが残念である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員異動による煩雑さもあり、前回評価結果について十分に話し合い、全職員で自己評価作業に参加するまでに至らず、介護部主任が作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3ヶ月に1回、併設のグループホームめぐみ2と同時に、家族会も併せて開催している。構成員も妥当であり、家族からの意見表明、家族提案の課題への改善についての報告もあり、双方向性のある会議内容である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議に家族会を併せて開催することで、意見等を表明し交換しやすい場がつけられている。また、家族来訪時に担当者が丁寧に面談することにより、家族の意向を把握するよう努めている。課題は月1回の会議で検討し、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	戸建ちの多い住宅地に位置するせいか、近隣住民との親交が取りにくいようだが、併設の通所介護と共同して行う地藏盆やひな祭りに住民や幼稚園児を招待し、交流を楽しんでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症や身体の障害があっても、生き生きとした喜びを感じ、その人らしい生活を維持できるように援助していく、地域社会社会への参加をはたらきかける、を主旨とした理念をもつがややわかりにくい。	○	現存の理念はかなり長文である。地域密着を意識したものとコンパクトなもの、利用者・職員・地域住民が覚えやすいものを、現場職員との話し合いで作られることを望む。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内掲示と業務日誌に貼り付けることで、理念の理解と共有を図り、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同じ建物に併設するデイサービスとの交流での顔馴染みや、季節の各種共同行事に招待する住民や幼稚園児との交流がある。それ以外の地域・地元住民との交流は少ないようである。	○	ホームが戸建の住宅地に位置するところから、近隣との日常的な親近感を持った交流が容易でないとは推察する。運営推進会議での自治会会長や民生委員、ボランティアからの地元情報を活かすとともに、交流についての協力が得られるよう、積極的に働きかけることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員間で評価の意義を理解し自己評価に取り組み、事業所全体で改善課題を共有し改善に向かうとする仕組みはあるが、それが活かされているとは言い難い現状である。	○	介護の原点とホームの理念に立ち返り、「その人らしい生活が維持できるよう援助していく」ために、自己及び外部評価が大きな糧となることの理解を深め、実践に取り組むことを望む。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回、めぐみ2と共催、家族会を併せて行われており、概ね内容も双方向性のあるものになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受け入れ、運営上の諸事についての相談など、必要な交流がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月ごとに個々の利用者状況を郵送にて報告の他、家族来訪時に介護記録の提示、金銭出納帳の確認を貰うなどしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に1回の運営推進会議に併設して家族会議を持ち、意見交換をしている。家族来訪時の担当者との面談を丁寧におこなっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	個人的な事由以外は、法人内での異動は極力抑えている。3年以上勤務の常勤職が多いことは、利用者の安穩にも繋がっているようだ。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、法人内7事業所全体の勉強会が実施されている。外部研修については、情報による個人参加への補助はあるが実施回数が少なく、また報告書の不備があり、伝達学習には至っていない。	○	限定された法人内研修だけでなく、職員が広く外部の研修に参加することによるスキルアップと伝達学習実施による相互研鑽の効果が図られることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会が殆どないとしている。	○	職員の士気と資質向上のためにも、市担当課や地域包括センターに働きかけ、市内同業者との合同研修会等の実施をきっかけにして、交流の機会を作り増やすことを大いに期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	構内併設のショートステイやデイサービスから移行しての利用者が多く、日頃の馴染みが続くことから、本人・家族・職員ともに納得と安心のサービス利用となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	当初のアセスメント、経過アセスメントにより、個性と現況把握に努め、日々の生き生きとした喜びと楽しみを共にするケアを心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ADLが低下するなかで、できること・できないこと・やりたいことを探りながら、その人らしい生活の維持を支援したいとしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各利用者の担当者が行うアセスメントを基に、月1回の会議にて検討のうえ介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回の見直しと、必要時に担当者が発信する情報により、検討会議にて新しい計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師1名確保による健康管理と医療連携の強化、職員の半数以上が介護福祉士にであることによりサービス提供の強化が図られている。尚、必要に応じて、看取り介護、若年性認知症受け入れに対応できるとしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の大半が入居以前より法人内診療所をかかりつけ医としている。他の専門診療科については、協力医療機関受診の同意が得られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り介護加算の取得にあたり、重度化した場合の対応や看取りに関する指針を作成した。順次、家族との話し合いと職員間の協議と合意を進めるとしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	慣れにおぼれることなく、親しみをもつ言葉かけや対応に留意している。個人情報管理も適正である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ADL低下に伴い、個人的要望の発信が少なくなっている。これまで以上に、気づきと関心を大事にしたケアに努めたいとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	構内併設事業所と一体の厨房で、外部委託業者が調理したものが提供されている。月1回、希望による外食または出前食で変化をつけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回を基本とした入浴体制をとっている。機械浴の必要があれば、デイサービスの浴場利用もある。シャワー浴・足浴の対応もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	心身の状況により個人差が大きく、デイサービス利用や行事参加の希望などにも差があるが、夫々のペースに沿った日々の支援を心掛けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	時候・天候・心身状況により施設周辺の散歩を心掛けているが、思うようには実行されていない。	○	人的配置の要因も理解するが、ケアに欠かせない外出支援の重要さからも、周辺散歩の域を超えた外出の取り組み強化へ向けた一層の努力を望む。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上、昼間の施錠はなく、入居して間のない利用者の排出には見守りと擁護で対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームに構内の避難路を掲示、消防署立会いでの避難訓練を実施している。地域の協力体制については、運営推進会議で協議を重ねている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内管理栄養士による献立による食事と水分の摂取量は、しっかり確認されている。刻み食での食事介助も適切に行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	既存の幼稚園を改造・改装して作られた居間兼食堂だが、入院患者とショートステイ利用者と共有していることもあって、少し窮屈さを感じる。寛ぎの雰囲気も窺えない。	○	居室と居間兼食堂の他は居場所のない利用者である。いまま少し寛ぎの場所として、家庭的な環境を整えることへの工夫と努力を望む。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個性・家族事情によるが、夫々の持込品でつくられた生活空間がその人らしさを漂わせている。		